

柏ビレジ自治会便り

2025年 4月号

2025年 4月 30日

柏ビレジ自治会発行

自治会事務局 (自治会館)

TEL 04-7132-1925

FAX 04-7132-1965

# 柏ビレジ・ニュース

柏ビレジ自治会ホームページ <https://kashiwa-village.com/>

2024年度の活動と今後の課題

## 5年後のビレジが見えてきた

会長 シュピンドラー 千恵子



日頃、自治会活動にご理解ご協力頂き有難うございます。今年度、数々の取り組みの中で最も大きな課題であるコミュニティバスの運行を開始することが出来ました。足かけ10年かかりましたが、皆様のご支援のもと、ようやく実現することが出来ました。また、水辺公園リニューアル調査において、ベンチの次にニーズが高かったトイレ設置の調査目的で、自治会発足以来、初めて当で「森のフェスタ」を開催しました。これらの取り組みはSDGs「住み続けられるまちづくりを」方針のもとに推進している施策です。

さて、「44年経過したベッドタウンは放っておくとどんな町になりますか?」とChat GPT(AIチャットサービス)に質問したところ、回答は次のとおりでした。

『地域の発展状況や行政の対応によって異なるが、放っておくと以下のような変化が起こる可能性がある。』

1. 高齢化と人口減少: 住民の多くが高齢化、子どもが巣立ち空き家が増加する。
2. インフラの老朽化: 道路や公園が老朽化し、メンテナンスが追いつかなくなる。建物の劣化が進み、空き家や廃墟が目立つようになる。住環境が悪化し、防犯や防災面でのリスクが高まる。
3. 商業施設の衰退: 住民減少によりスーパーや商店が閉店し、買物利便性が低下する。地元の商店街がシャッター街化し、地域の賑わいが失われる。
4. 交通利便性の低下: 住民減少で公共交通機関(バスなど)の利用者が減り、本数が減便される。高齢者にとって移動が困難になる。交通の便が悪化すると、さらに若い世代が流出し(または流入せず)、負のスパイラルに陥る。
5. 治安の悪化、学校や公共施設の縮小・統廃合。対策がなされなければ、衰退の道を辿ることが予測されるが、再開発やリノベーションなどの取り組みにより、新たな住民を呼び込み、再生の可能性もある。』

との回答でした。

まさに今、我々の生活を守る為には次世代の住民に繋げる活動が必至です。コミュニティバス運行開始から約9か月を迎えます。ニーズ調査程、乗車数が伸びていない状況です。本バスは自治会費を一切使わず、受益者(乗車者)と柏市補助金、住民及び企業協賛金で成り立っていますので、一定数の乗車数がないとバスはなくなる可能性があります。

今はいい、5年後10年後と言わず、是非今から利用して頂き全住民でバスが存続できるようご協力をお願いします。柏市と持続化の交渉を繰返した結果、3月末の柏市交通政策審査会で、2年目の運行が承認されました。明らかに必要となる住民の足。これを確保すべく鋭意努力して参りますので、ご理解ご支援賜りますよう切にお願い申し上げます。

## 自治会の今

事務局 高橋 京一



20数年ぶりに自治会役員を担いました。自助、共助、公助の大切さが叫ばれるなか、40数年を経た「柏ビレジ自治会」は、住民自治を実践していると思えます。

日々寄せられる要望、課題に、自治会は真摯に取り組んでいることを自治会事務局に入り、実感しました。

例年、総会は、花野井小体育館に多くの住民が集まり、関心の高さ、自治会への期待を感じることが出来ます。

持続可能な地域づくりを目指して、建築協定、地区計画、コミュニティバスの運行、LINE配信など、住民のコンセンサスを得ながら進めています。

## 1年間を振り返って

副会長 刑部 修



会長のサポート、会長の指示に基づく次のような業務を遂行しました。

- ①ふるさと協議会代理出席
- ②副会長としての担当部である防災部、環境部のサポート
- ③テニスコート8面張替えのための公園緑地課との折衝
- ④水辺公園アオコ・モニタリング並びに下水道工務課との折衝
- ⑤運動公園の予約業務(現在事務局が遂行)のスポーツ課への返上交渉
- ⑥壊れた防犯灯のポールの取り換えに関し、市と折衝(防犯部のサポート)
- ⑦水辺公園・第5公園でのベンチ10台のコンクリート固定のための業者手配
- ⑧各イベントにおける力仕事 ⑨その他会長指示案件。

柏ビレジでは、高齢化と、若い人の共稼ぎが増加しており、自治会業務を遂行する人員の確保が難しくなっております。上記のような雑多な業務が、一年を通して多々出てきます。会長にかかる負担は大きく、今後とも誰かがサポートする必要があり、人材確保が課題です。

## 柏ビレジが、誰もが安心して暮らせる街に

副会長 森田 幸次



介護保険の「定期巡回随時対応型訪問介護看護サービス」が2023年から柏ビレジに導入されました。2025年1月末現在利用者はゼロですが、事業者であるトータルケアステーション和気あいあい全体の利用者数は、28名となっています。

このサービスは、特別養護老人ホームや有料老人ホームの介護保険のサービスが住居で受けられるものです。金銭的メリットは、一人あたり、最低9万円程度の家賃がかからないことです。また、自宅で快適に暮らすには、健康面・生活面を自分たちで考え、快適に暮らす工夫をする気持ちです。

柏北部地域包括支援センターに協力いただき、定期的な勉強会(老年学講座)を実施しています。直近では、2月17日に医療創生大学のキャンパスをお借りし、フランスベッド福祉財団から助成金を頂き認知症を知るための映画会「ぼけますから」とミニ講座を開催しました。

また、散歩を通じての住民交流会であるオレンジ散歩(雨天は同所で茶話会)を毎月第2水曜日(10時半~11時半)にはなみすき前へ集合し開催しています。

また、北部地域包括支援センターは、みなさんのご相談については、自宅にお伺いやお電話での問い合わせも受けています。また、老年学講座に出席するのは、面倒という方、もっといろいろなことを知りたいという方は、以下のHPで各種案内をしています。

■国立長寿医療研究センター <https://www.ncgg.go.jp/>

## 持続可能な発展と多様性への挑戦

副会長 横堀 正枝



柏ビレジは、成熟した美しい街並みを誇り、緑豊かな公園に恵まれていきます。これらの魅力を持続可能な形で次世代へ継承するために企画した『柏ビレジオクトーバーフェスト』は、おかげさまで3回目の開催を迎えることができました。これからも様々な背景を持つ地域の皆様が一堂に会する場として、柏ビレジの発展に寄与していくことを願っています。

一方、住民の高齢化が進む中で、自治会役員の担い手不足が深刻な課題となっています。また、私を含む現役世代は、仕事と家庭の両立から、地域活動に割ける時間が限られています。こうした現状を踏まえ、業務の一部をアウトソーシングするなど、自治会の効率的な運営体制の再構築が急務です。

さらに、近年は多世代・多国籍・多文化といった多様性が進展しており、このような様々な価値観を背景に持つ住民の方々が、新たな地域活力の源泉となる可能性は非常に高いと考えられます。各方面からの意見を積極的に取り入れ、持続可能な発展へ向けた体制の構築が今後の課題となるのではないのでしょうか。

## 自治会活動を通して

### 知ることができた柏ビレジの魅力

副会長(未来まちづくり部、事業部) 巨山 雄也



未来まちづくり部と事業部の統括役として、主にオクトーバーフェストと森フェスのイベント企画・運営を中心に活動して参りました。柏ビレジに引越してきて1年足らずで自治会役員に就任しましたので、この地域のことは右も左も全く分からない状態で活動をスタートしました。平日は仕事なので、他の自治会役員の方々のフォローや理解をいただきながら土日中心の活動となりました。

また、一昨年産まれた娘がおりまして、毎日子連れで会議に参加したり、イベント当日も抱っこ紐で子どもを抱えたりしながらの活動でしたが、役員や住民の方から「子育てしながら頑張っているねー」「お子さんかわいいね」などの温かいお声かけをいただいたおかげで、働く親として何とか役目を果たすことができたと感じております。

今振り返ると、この1年間の自治会活動を通じて、自分たちが移り住んだ地域への理解を深めることができました。また、住民の皆さんやこれまでの自治会役員の方々の工夫や努力のおかげで、現在も魅力あるこの街が存続していることを実感しました。

この先も柏ビレジの住民の皆さんが、そして子ども達が大人になってからも、引き続き安心安全で誇りを持って過ごしていける柏ビレジであり続けることを願っています。

開催決定

## 柏ビレジ オクトーバーフェスト2025

■ 開催日程(予定) 2025年10月25日(土)・26日(日)

- 出演者&企画の募集(企画は6月頃より開始いたします)
- ・バンド、ダンス、パフォーマンス
  - ・ゲームやワークショップ
  - ・体験ブース
  - ・その他キッチンカー
  - ・屋台など

今年も地ビールや地元グルメ、音楽や踊りで最高のひとときを一緒に楽しみましょう!



## オクトーバーフェスト 2024動画紹介。

あの日の熱気と笑顔を再現。ぜひご覧ください!





### 2024年度活動概況 建築緑地協定部 荒柴 順夫

2024年度の活動方針として、地区計画移行について住民の皆さんへの情報提供、5つの建築協定委員会との意見交換会等の実施の2点を掲げました。以前から、建築協定委員会と自治会では言うことが正反対、建築協定委員会と自治会はもっと仲良くやれないのか、等々のご意見が多く自治会に寄せられています。地区計画移行は建築協定の存廃と表裏をなすこと、従って各建築協定委員会の理解と協力が得られない限り地区計画移行は不可能です。よって、今年度は各建築協定委員会との意見交換会の実施を優先課題とし、2024年7月・9月・12月及び2025年3月と4回の会合を実施しました。

各建築協定委員会執行部の皆さんは、協定の規定に則り誤りなく運用することが委員の業務であるとし、基本的には建築協定順守の姿勢に変化はありません。しかし自治会との対話に応じていただき、活発な議論ができたことは大きな前進と考えています。本年度活動方針の一つである住民の皆さんへの情報提供については、各協定執行部の皆さんと私どもの見解にまだそれなりの開きがあることから、敢えて控えさせていただきましたが、各協定と自治会の対話が成立していることに鑑みご容赦くださるようお願いいたします。

柏ビレジは急速に高齢化が進んでいます。自治会が掲げる「世代の垣根を超えた優しいまちづくり」を実現するためには、ビレジを多様性と利便性を兼ね備えたまちに作り替えていかねばなりません。地区計画制度はビレジのまちづくりの一助になるものと信じています。皆さんの一層のご支援をお願いします。



### 環境部活動を振り返って 環境部 上出 利裕

今年度は、特にゴミ処理に関する課題が多く寄せられました。ごみ収集用ネットの更新や、ごみ収集ボックスへの移行申請を承認し、19件の対応が完了しました。一方で、収集品目の間違いに関する苦情もあり、支部長さんにも対応いただきました。今後の周知徹底が課題となります。また、植栽の成長や落葉に伴う隣接敷地からの影響についても調整を行いました。特に公園や公道に関する問題が多く、管轄する柏市へ要請を行い、計5件の対応を実施しました。

環境部の業務は多岐にわたり、問題解決には自治会員一人ひとりの協力が不可欠です。環境部はクレーム処理部門ではなく、関係者間の調整役だと思っています。柏市の各担当部署や各支部長、前任環境部長さんの協力もあり、円滑な対応が進められたことに感謝しております。今後の課題として、環境部の業務は受け身であり、要望・苦情の予測が難しい点が挙げられます。問題解決には長期間を要することも多く、同じ内容が繰り返されることもあります。環境問題は身近な自然や人との関わりが深いため、自治会員が自身の「生活環境問題」として捉え、小さな単位(支部、班)の連携をはかり、取り組むことが重要だと感じています。今後も関係する皆様のご協力をお願い申し上げます。



### ホームページとビレジニュースの改善に向けて 広報部 田中 誠一

主な活動として、ホームページの更新と「ビレジニュース」の発行(年2回)を行っています。

柏ビレジに越してから10年以上経ちますが、本年度、初めて役員となり、部長を任せられました。実際に部長として活動してみて感じたのは、ノウハウがない状態ではホームページの管理や「ビレジニュース」の編集を進めるのが難しいということです。ホームページについては、以前から目にする機会はありましたが、長年にわたり継ぎ足されてきたコンテンツや煩雑なUIにより、見づらく、分かりにくいものとなっています。その改善を検討するにあたり、WordPressやHTML/CSS、PHPといった技術的な知識に加え、コンテンツ整理や企画のノウハウが求められ、非常に多くの時間を要することが分かりました。

「ビレジニュース」に関して、発行計画がない状態で引き継いだため、編集や企画を立てること自体が困難でした。こうした状況の中で、ようやく活動内容や進め方、問題点が明確になってきたところですが、現状のままでは次の担当者への引き継ぎが難しいと考えています。そのため、次年度も継続して活動を行う意向です。

今後の取り組みとして、通常の活動に加えてホームページのリニューアル計画の策定、「ビレジニュース」については発行計画や要綱の整理、広報活動のマニュアルの作成等を進めていきたいと考えています。



### 2024年度活動報告書 事業部 小島 浩子

今回初めて自治会の役員をさせて頂きました。事業部はイベントを主催する部ですが、主にオクトーバーフェストを開催するための部です。キッチンカーなどの飲食、テントステージで参加される方のスケジュール管理など...

また、今回は寄付金を一口1500円にした事もあり花火を打ち上げる事が出来ました。寄付して頂いた方々に心より感謝申し上げます。今後の課題としては、今回オクトーバーフェストを開催するまでの間に会議が毎週ありました。4人の子供を育てながらの役員は大変だと正直感じました。役員会議には一番下の4歳の子を毎回連れて行きました。提出書類作成で家での作業もあります。

今回役員をさせて頂いて良かった点は、知らなかった方と知り合えた事です。同じ地域に暮らしていても話す機会がないと話さなかった方々と知り合えた事は宝だと感じました。また、地域の事を知る良い機会かなと思います。イベントの裏側も知ることが出来て楽しかったです。何もわからない状況でしたので不安がありましたが、会長副会長並びに皆様のサポートのおかげでオクトーバーフェストを無事終える事が出来ました。

ご協力して頂きありがとうございました。



### 住みやすい街へ 未来まちづくり部 高柳 キミエ

全世代にとって住みやすかつ持続可能なまちづくりを目指す柏ビレジランドデザインを具体化するために柏市住環境再生課との連携により、以下のまちづくりの基本コンセプトに取り組みました。美しいまちづくりとして柏市都市再生整備計画の「水辺の公園リニューアル」の1つが11月23日に実証実験イベントとして実施しました「森のフェスタ」です。秋の1日多くの住民の皆様に多彩なプログラムを楽しんでいただきました。

便利なまちづくりとして交通不便地域の解消のため、多くの皆様や企業様店舗様のご支援の下、実証実験を経て「コミュニティバス」の本格運行を実現させることができました。運行継続のために、更なるご支援をお願い致します。

楽しいまちづくりとして、事業部と協力して10月19日、20日に「オクトーバーフェスト」を実施しました。ビレジ内外からの多くの方々とイベントを楽しみました。



### 良い経験 防犯部 奥 美和(たんぼみわ)

防犯部の活動内容は、申請書等の作成・提出から、実際に外に出て定期的なパトロールや防犯灯・防犯カメラの作動確認、住民の方への連絡など多岐に渡ります。

防犯部長に任命されて半年経過しても、慣れないことばかりで頭がパンクしそうになった事も多々ありました。しかし、周り皆様のサポートのおかげで無事任期を終えることが出来そうで「ほっと」胸をなでおろしております。そして、防犯部員となり思ったことは、「地域の安全を作る・維持する」とこと、「自治会活動」は似ているな、という事です。どちらも「皆で」するという事です。

防犯の点では、地域での「あいさつ」がその一つです。実際に、空き巣が犯行を諦める最も多い理由は「声をかけられたから」というデータもあります。「あいさつ」「ゴミ拾い」など、小さなことの積み重ねも、日々の私たちの安心・安全な生活を守る要素の一つだと感じます。1人1人が意識する、自分で出来ることから始めてみる、ということが大切だと改めて感じました。また、自治会の活動も多くの方と一緒に取り組み、助け合い、意見を出し合うことでより良く出来るものだと感じました。

今回一緒に活動させて頂いた皆様には深く感謝申し上げます。来期はアドバイザーとして地域に貢献したいと思います。ありがとうございました。



### 2024年度活動報告書 福祉・健康部 中村 繁夫

2024年の初頭能登地震が発生、更に南海地震なども発生、気候変動の一環で洪水も頻発しております。ビレジは高齢化が進んでおり、地震、水害への対策が重要な課題です。福祉健康部では地震発生時にK-Net(地震発生時に対象者の安否確認をするためのツール)対象者の安否確認、および水害時に要支援者の個別避難計画が大きな責務となっています。

K-Net対象者は毎年変動があり、これらの方への支援者のマッチングを進めました。個別避難計画では、災害発生時に連絡、移動、避難場所などをあらかじめ講じる必要があります。本年は事業構築の半ばでまだ完成をしておらず、来年度の課題となりました。

同じく高齢者対策の一環である民生委員の人員も高齢者が増えた現状で、昨年度に1名増員となりました。来年度には3名が交代の時期となり、併せて1名が病気のため欠員となり、これらの方の交代要員の確保をすすめましたが、今期には確保できず、来年度の課題となりました。花野井小学校、田中小学校の学童の素晴らしい力作の作品展を1月～2月はなみすきで開催し、たくさんの方に鑑賞していただきました。ありがとうございました。



### 大規模洪水を想定した初の避難訓練実施 防災部 田中 太郎

「今年は防災訓練をやっていただきます」。昨年6月。自治会執行部の初顔合わせとなった部長会で、シュピンドラー会長からかけられたこの言葉が、この1年の活動の始まりでした。

昔は震災を想定した訓練だったようですが、この数年は実施しておらず、前任部長からの引き継ぎも資料もありません。正直、途方に暮れましたが、この「前例なし」の状況がかえって良かったのかもしれない。防災部の3人と刑部副会長とで打ち合わせを繰り返し、柏市防災安全課にも相談。利根川の堤防決壊を想定した洪水避難訓練を11月に行いました。

ビレジと利根川の間広がる水田は、実は豪雨時に利根川からあふれた水を受け止める広大な調節池。決壊すると低地のビレジは大変なことになる。気候変動で相次ぐ豪雨災害に、漠とした不安を抱える住民も多いはず、と初の水害訓練としました。

さらに自治会ホームページの防災コーナーを一新し、災害時の対応や平時の備えのマニュアルにしました。ぜひ一読を。8月には、災害時の一斉連絡用に整備したLINE連絡網の使用状況も調べ、登録は全世帯の2/3にとどまることを確認しました。

来期以降も、防災意識の向上やLINE連絡網の利用促進に知恵を絞る必要があります。協力は惜しみませんので、気軽に声をかけてください。



### 持続可能な新体制を！ 子ども部 岡田 小央里

子ども部は部長・副部長の2名体制で、夏から冬にかけて、とにかく慌ただしく活動しました。活動を支えて下さった皆様には、心より御礼申し上げます。

- 【活動の内容】
・ラジオ体操
・イベントサークル主催の夏祭りへの出席
・10月オクトーバーフェスト(キッズパーク運営)
・11月森のフェスタ(スタンブラー実施)
・12月イベントサークル主催のクリスマス会への出席

マンパワーが足りない事が子ども部の課題です。加えて「職員の負担を減らす事」を目的として、公立小学校の協力を仰げなくなったこと、有志で応援して下さる方々の高齢化など、活動はますます困難な状況になりつつあります。共働き家庭が多く、部活や塾などで忙しい日々を送る子が増えています。地域のささやかな催しに、子ども達が心を躍らせる環境を、今後も維持したいと切に願います。

大人になった後も「ビレジで過ごした子ども時代は楽しかった。良い思い出だ。」と僅かに残る記憶こそが、この町への愛着にも繋がるのではないかと期待します。

「仕事をしながらでも自治会活動が出来る、経験がなくても子ども部の催しを運営出来る」持続可能な体制の確立が必要です。今後は場合によっては「外注」なども、視野にいれるのも一つのやり方ではないかと考えます。

「柏ビレジ自治会」公式LINE
ご登録のお願い！
ご家族の方の登録も大歓迎です！
登録者数 1,653名！
※2025年3月現在
公式LINEでは、地域の最新情報や防災のお知らせ、イベント情報など、日々の暮らしに役立つ情報をリアルタイムでお届けしています。緊急時にも活用されるため、まだご登録がお済みでない方は、この機会にぜひご登録ください。